

**製品名: E2F-5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10257**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	E2F5
別名	E2F5; Transcription factor E2F5; E2F-5
遺伝子 ID	1875.0
SwissProt ID	Q15329
免疫原	抗血清はヒト E2F-5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 93-142

**背景**

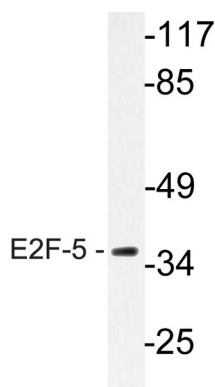
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 E2F ファミリーのメンバーです。E2F ファミリーは、細胞周期の制御と腫瘍抑制タンパク質の作用において重要な役割を果たしており、また、低分子 DNA 腫瘍ウイルスの形質転換タンパク質の標的でもあり

ます。E2F タンパク質は、ファミリーのほとんどのメンバーに存在する、進化的に保存された複数のドメインを含んでいます。これらのドメインには、DNA 結合ドメイン、分化制御転写因子タンパク質 (DP) との相互作用を決定する二量体化ドメイン、酸性アミノ酸に富む転写活性化ドメイン、そして転写活性化ドメイン内に埋め込まれた腫瘍抑制タンパク質結合ドメインが含まれます。このタンパク質は異なるリン酸化を受け、様々なヒト組織で発現します。このタンパク質は、他のファミリーメンバーよりも E2F4 との相同性が高いです。このタンパク質と E2F4 は相互機能を有します。E2F 部位に結合する転写活性化因子です。これらの部位は、細胞増殖に関与する多くの遺伝子のプロモーター領域に存在します。増殖因子によって開始されるシグナル伝達を媒介する可能性があります。休止細胞の成長因子刺激に対する初期反応に関与していると考えられる。類似性: E2F/DP ファミリーに属する。サブユニット: DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素。DP-1 と協調的に E2F 部位に結合する。網膜芽細胞腫タンパク質 RB1 またはタンパク質 RBL1 および RBL2 との相互作用により、E2F 転写活性化ドメインが阻害される。DREAM 複合体 (LINC 複合体とも呼ばれる) の構成要素であり、少なくとも E2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、および TFDP2 から構成される。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制する。LIN9、LIN37、LIN52、LIN54 が MYBL2 に結合するサブ複合体を形成すると、S 期に解離します。

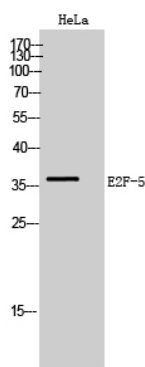
## 研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M DNA;TGF-ベータ;

## 画像データ



E2F-5 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウエスタン ブロット分析。



E2F-5 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウエスタンブロット解析